

## 第4回

## 線

～線の表現力～

美術教育監修・執筆

上野行一

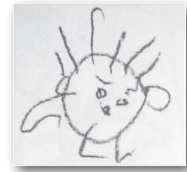
自然界に形はあっても線はない。人であれ物であれ、花であれ森であってもその形をとらえ、描き写す際に線を使うことは偉大な発見といえる。線による表現は奥が深い。今回は線で表現することについて、線がかきたてる想像力、線が生み出す表現力、線で表現することなどを学ぶ。

学習前  
チェック!

西洋美術の歴史と比べると、東洋や日本では線を使った絵画表現が特徴的だ。美術の表現方法としても、また日常生活においてもあまりにも身近であるため、ふだんは気がつかない線による表現に注目してみよう。

## 線が与える印象

幼児は2、3歳前後になると右のような「頭足人」という絵を描き始める。丸と線で人体を表現した簡単な絵だ。1歳前後のころにはまだ線で形を表すことはなく、なぐり描きをして線をもてあそぶだけだった幼児が、初めて具体的な形を描くのがこの「頭足人」だ。世界中の子どもが必ずこの絵を描く段階を通過して大人になっていく。人には線で形を表現する力が備わっているからだろう。



また、線で描かれた形からそれが何かを読み取る力も私たちはもっている。私たちの脳はその驚くべき想像活動によって目に映るものを記憶と結びつけ、理解できる姿に還元する。線はその最も親しみ深く有能な媒介者だ。

## 線が生み出す表現力

線を用いて表現することは単純でありながら奥が深い。線を引くときの勢いと力の加減を変えるだけで線の太さやかすれ、リズム感などを表現することができる。番組で紹介する効果線のように動きを感じさせるなど、描きたいものを補助する線の働きもある。線には見る者にイメージを与えたり、感情を呼び起こしたりする力があるのだ。

## 線で表現する

一本の線をひくことで、平面の画面に立体や深さをつくったりすることができる。現代アート作家のブライス・マーデンが述べたように、何らかの形を表すのではなく、何も想定せず線を引いたり、描かれた線から次の線をイメージしたりして、線そのものによって多彩な絵画空間をつくり出すことができる。線が生み出す表現の可能性に挑戦してみよう。

